

6月の植物

セッコク（ラン科、セッコク属）

学名 : *Dendrobium moniliforme* (L.) Sw.

観察会の事前調査で竜門を訪れた際、頭上高く林冠の間から見えたのは、陽光に明るく照らされた岩場に着生して薄桃色の花を咲かせる姿であった。花期は5月頃までなので6月の梅雨時に美しい花を見ることは難しいようだが、今回特に紹介させていただく。

栽培品は広く販売されているが自生のものは希少であり、盗掘を免れるような断崖絶壁にしか残っていないようだ。採集の対象となった事情も昨今の話ではなく、生薬としての利用や、鑑賞の対象として愛好されてきた歴史は古い。生薬としては中国最古の本草書『神農本草経』（3世紀頃）に記載され、日本でも医薬の神にちなんで「少彦薬根（すくなひこのくすね）」と呼ばれるなど珍重されていた。また古典園芸の世界では「長生蘭」と呼ばれる。乾燥した岩上のわずかな土壌から節くれ立った茎（矢）をのばして少ない葉をつけた立ち姿と、一転して可憐な花を咲かせる変化の妙は、いかにも古典趣味に訴える力を感じさせる。容易な栽培、株分けの方法なども確立されている。

セッコクは単に希少な野生植物というだけでなく、植物に対する人間の趣向にもはるかな歴史があることを知らせる植物だと思う。（寺村朋輝）

<参考にした URL <https://ja.wikipedia.org/wiki/セッコク>>



2017年5月13日 有田町竜門峡